

とぎつ

令和8年
第3回定例会

NO.183

2026年10月16日

発行

継休 つぎ

発行：長崎県時津町議会

議会だより



シニアクラブ・なづみ会の 皆様が議会傍聴に！

- * 一般質問..... P7 ～ P17
- * 議員活動報告..... P18
- * 西時津左底線開通..... P19
- * 傍聴席からひとこと（左底なづみ会）..... P20



一般会計補正予算

1億6,922万1千円追加

予算総額

144億2,156万1千円

令和8年 第3回定例会

令和8年第3回定例会は、9月1日から18日まで開催され、令和8年度一般会計補正予算など19議案が上程され、審議の結果、全議案可決、承認、同意した。

町政全般にわたる議論と時津町の課題など、多くの質疑を交わした。

(単位 千円)

会 計 名			補 正 額	予 算 総 額
一 般 会 計			169,221	14,421,561
特 別 会 計	国民健康保険		53,165	2,969,620
	後期高齢者医療		2,021	513,352
	介護保険	保険事業	25,615	2,454,488
		介護サービス事業	1,294	26,678
事 業 会 計	水道	収益的収入	984	784,695
		収益的支出	△ 16,670	776,732
		資本的収入	98	40,761
		資本的支出	△ 10,504	744,791
	下水道	収益的収入	1,491	872,464
		収益的支出	△ 1,339	825,366
		資本的支出	△ 30	1,019,000

令和8年第3回定例会（9月議会）の議案及び賛否

議案等番号	議 案 名	審議結果	内田裕三	鳥居浩一	永田博文	古谷孝太郎	森大塚俊久	平埜靖	川原貴光	浜辺七美枝	中原ゆう子	久保哲也	新井政博	濱崎幸徳
第56号	時津町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
第69号	令和7年度時津町一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
第70号	令和7年度時津町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
第71号	令和7年度時津町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
第72号	令和7年度時津町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○

○：賛成 ●：反対 △：退席 欠：欠席 ※議長は裁決に加わらないため、掲載しておりません。
※紙面の都合により、今回提出された19議案のうち、反対のある議案のみ掲載しています。

決算審査特別委員会審査

令和7年度一般会計他決算を可決・認定

令和8年第3回定例会本会議に

おいて、決算審査特別委員会に付託された議案審査のため委員会を開催、審査の中で多くの質疑を交わし、議案第69号から74号まで原案通り可決・認定した。

以下、主な質疑を抜粋して報告する。



議員全員出席の決算審査特別委員会

議案第69号

令和7年度時津町一般会計歳入歳出決算の認定について

Q 救急車を1台購入しているが、どういう効果があったか。

A 購入は令和6年度であるが、購入したことで1台にかかる緊急搬送回数が軽減され、長崎市への応援体制も良くなった。



Q 創業塾事業について、令和6年度から7年度にかけて、30万円→15万円と減っているのはどうしてか。

A 西そのぎ商工会と協議しながら事業の振分けをして、令和7年度は支出の見直しにより、当初25万円の補助金が15万円に減額となった。
どの補助金に多く配分するか検討し、

10万円を新展開支援事業に配分した。

Q 「ときつみんなで歩こうデー!! 2025」に係る業務委託費として550万円は社会教育課で内容を検討して行ったのか。

A 社会教育課において事業内容の検討を行い、プロポーザル方式により2社の中から選定した。



ときつみんなで歩こうデー!! 2025

Q 令和3年度の就学援助費の準要保護は、支給額2千900万円であったが、令和7年度には2千400万円と減っている。

基準額の変更などがあったか。

A 支給の基準は変わっていない、児童生徒の減少に伴う受給者数の減少が原因と考えられる。

受給率は小学校10.19%、中学校は

10.53%で約10人に1人が受給している。

Q 地域猫の活動に取り組んでいる団体の活動状況と、その団体が申請した、所有者のいない猫などに対する不妊・去勢手術促進事業補助金の件数はどれくらいあったか。

A 時津町に3団体あり、各団体が一日2〜3回、給餌きゅうじを行い、複数個所にトイレを設置している。

なお、3団体とも、給餌後の皿は回収し、トイレ清掃は毎日実施している。去勢手術の対象頭数は、3団体合計で61頭となっている。



地域猫活動中

Q 障害児サービスの給付費が増加しているが、このことについて分析はしているか。

A 障害児が単純に増えたというよりは、制度の周知・理解が浸透したことや、受けられるサービスが充実したことが要因だと考えている。



居場所づくり（はこべら風景）

Q 地域支え合い活動支援事業の2年目以降の補助金が、令和7年度から10万円増加して20万円となっているが、補助金が適切に使用されているか確認は行っているか。

A 補助金の申請時や、実績報告時に提出してもらう関係書類で使用目的などの確認を行い、必要に応じては、内容の聞き取りや指導を行っている。
また、各団体の定例的な協議の場に職員も出向くようにしており、その中で活動内容なども確認している。



浜田郷在住
山口さん 濱本さん

日頃、
お会いできない人との
会話が楽しみです

《討論》

反対討論

投資的経費や議員報酬の大幅アップの一方、中学校給食費の無償化や学校体育館へのエアコン設置などは、実現できていない。

さらに生活困窮者のエアコン設置への助成や、補聴器購入への補助にも踏み出してもいい。

マイナンバーカード普及のための予算「社会保障・番号制度システム整備事業費」として3千250万円が使われている。

マイナンバーカードは個人情報の漏洩の危険性ととも、監視社会に繋がる危険性をもっている。

以上のことを指摘して、反対討論とする。

賛成討論

なし

採決

議案第69号は、賛成多数により認定すべきと決した。

議案第70号

令和7年度時津町 国民健康保険特別会計歳入歳出 決算の認定について

Q 透析に係る患者数と医療費はどれくらいか。

A 現時点での患者数は15名で、令和7年度の医療費は、7千280万円程度である。

《討論》

反対討論

所得が無く財産もない世帯に対して、国保税の負担そのものが重すぎる構造と思われる。

国保税は、一般会計から繰り入れや、財政調整基金を取り崩しても引き下げに使うべきということを指摘して、反対討論とする。

賛成討論

なし

採決

議案第70号は、賛成多数により認定すべきと決した。

議案第71号

令和7年度時津町 後期高齢者医療特別会計歳入歳出 決算の認定について

質疑無し

《討論》

反対討論

大変な物価高騰による負担増が続くなか、年金は低く抑えられたままで、保険料の負担増による受診抑制が起きる。医療制度という差別制度を廃止し、

元の老人保健制度に戻すべきである。

減らされてきた高齢者医療制度への国庫負担を抜本的に増額し、高齢者・国民の負担軽減を進めるべきということと述べ、反対討論とする。

賛成討論

なし

採決

議案第71号は、賛成多数により認定すべきと決した。

議案第72号

令和7年度時津町 介護保険特別会計歳入歳出 決算の認定について

Q 「認知症の人と家族の会」への支援は、どのようなことを行っているか。

A 家族の会が実施する定例会や「なづみ野力フェ」などの運営支援を行っている。

《討論》

反対討論

本町の介護保険特別会計のうち、介護保険財政調整基金は2017年度の1億8千400万円から2025年度末には3億5千300万円と2倍になっている。

この基金は、介護保険料の引き下げに活用すべきだということを述べて、反対討論とする。

賛成討論 なし

採決 議案第72号は、賛成多数により認定すべきと決した。

議案第73号

令和7年度時津町水道事業会計
利益の処分及び決算の認定について

質疑無し

〈利益の処分について〉

《討論》

反対討論・賛成討論 なし

採決 議案第73号のうち「利益の処分」については、全委員異義なく、原案のとおり可決すべきと決した。

〈決算の認定について〉

《討論》

反対討論・賛成討論 なし

採決 議案第73号のうち「決算の認定」については、全委員異義なく、原案のとおり認定すべきと決した。

議案第74号

令和7年度時津町下水道事業会計
利益の処分及び決算の認定について

Q 下水道事業報告書において耐用年数50年を超過した管渠はないとあるが、計画的な更新を行っているか。

A 財政上、一度に更新は難しい為、今後、更新計画を立て優先順位をつけ更新を行っていく。

〈利益の処分について〉

《討論》

反対討論・賛成討論 なし

採決 議案第74号のうち「利益の処分」については、全委員異義なく、原案のとおり可決すべきと決した。

〈決算の認定について〉

《討論》

反対討論・賛成討論 なし

採決 議案第74号のうち「決算の認定」については、全委員異義なく、原案のとおり認定すべきと決した。

〔三役、関係部長・次長質疑〕

Q 令和7年度の決算において、交流人口の拡大を図る事業の予算執行の実績とそれに伴う実際の費用対効果や、地方創生施策について、町長はどのように評価しているか。

A 令和7年度は、とぎつカナリーホールや鯖くさらかし岩などの地域資源を連携させ、町全体の魅力を高めた一年であったと評価している。

また、財政面においても、国の交付金や有利な地方債を最大限に活用し、ハード事業の実質負担を25%、ソフト事業を5%に抑えることができた。

町の財政負担をできるだけ抑えながら、将来のまちづくりに必要な投資を行うことができたことは、財政面における費用対効果は非常に大きかったものと評価している。



産業厚生常任委員会審査報告

委員長 久保 哲也

令和8年第3回定例会本会議において、産業厚生常任委員会に付託された議案審査のため委員会を開催、審査の中で質疑を交わし、議案第56号は、原案のとおり可決した。

議案第56号

時津町特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例

Q 対象となる子どもの人数と利用者負担額及び利用可能時間はどれくらいか。

A 対象となる生後6カ月から3歳未満の未就園児は、250名程度と把握している。

利用時間は国が定めた基準により、月上限10時間であり、利用者負担についても国の基準では、1時間あたり300円が利用料金である。

《討論》

反対討論・賛成討論 なし

採決 議案第56号は、全委員異義なく、原案のとおり可決すべきと決した。

一般質問

■ 質問内容は
事前通告制です

新井 政博 議員

7



1. 公共施設等総合管理計画と図書館建設について
2. 人口減少時代の成長戦略について
3. 文化の森公園裏手の整備計画について

鳥居 浩一 議員

8



1. ゴミステーションの防犯カメラ設置について
2. 老老介護について
3. ふれあい農園について

濱崎 幸徳 議員

9



1. 日並左底線の防災道路としての位置付けについて
2. 町民のエアコン設置に対する町としての補助金について
3. 本町の水道事業について

永田 博信 議員

10



1. 地区防災計画について
2. 海と緑の運動公園の整備について
3. 2030年度から実施される、次期学習指導要領への本町の取り組みについて

中原 ゆう子 議員

11



1. 町内の若者等に対する施策について
2. 上水道事業について

浜辺 七美枝 議員

12



1. 災害対策と避難所問題について
2. 熱中症対策について
3. ジェンダー平等の推進について

古谷 文夫 議員

13



1. 人口減少問題について
2. 障害者就労施設等からの物品等の調達について

森 孝太郎 議員

14



1. カナリーホールについて
2. 放課後等デイサービスなどの延長支援について

久保 哲也 議員

15



1. 狭隘道路（2地区）の安全対策について
2. 高齢者世帯における「老老介護」の現状と問題点について

川原 貴光 議員

16



1. 町の施政方針に基づく施策について

平埜 靖 議員

17



1. 公民館エアコン故障時の補助制度について
2. 戦略推進課による地域資源の活用とシティプロモーションについて
3. 左底川支流平原川について



新井 政博 議員



録画放送はこちらから

図書館を含む複合施設の 見直しを図れ

施設の更新・統廃合・長寿命化
などを計画的に進める

山上 町長

Q 将来の町づくりに必要な新たな公共施設整備方針についても検討対象とすべきと考えるが。

A 国の補助金・負担金・地方債など、より有利な財源措置を活用しながら、施設の維持管理に取り組んでいる。

現在、新たな計画策定に取り組んでいる。



狭くなった図書館の内部



図書館の駐車場

Q 図書館の現状と課題をどのように捉えているか。

A 限られたスペースの中で図書や資料を配置しているため、全体的に狭く、閲覧や学習、滞在のためのスペースを十分に確保することが難しい状況にある。

駐車場についてもスペースが狭く、台数が限られていることから、利便性の面でも課題がある。

将来的な図書館の整備に当たっては、現在の施設が抱える老朽化や狭さ、駐車場の不足といった課題の解消を図るとともに、平屋とするのか、複合施設とするのか、また、カナリーホールとの併設の可能性も含め、関係部署との連携を図りながら、調査・研究を進めていきたい。



人口減少時代を どう乗り越えていくか

「時津町に住み続けたい」と実感
してもらいたいことが重要である

山上 町長

Q 人口が減っても持続できる都市機能や生活サービス等の機能を集約し整備することが重要と考えるが。

A 今年度からは公共施設についても、各施設の状況把握を行い、どのような整備が必要か調査及び整理を行うこととしている。

これまでも都市機能の集約化を図りながら、生活利便施設を維持する取り組みを行っており、今後も引き続き、住民サービス向上を図るために、効率的に取り組んで行きたいと考えている。

Q 計画的な土地開発で人口減少を最小限に抑える考えは。

A 本町は、県内でもっとも人口密度が高い町であり、非常にコンパクトな町である。

計画的な土地利用方針の施策推進により、人口減少対策の一端となるよう取り組みを推進している。



整備が待たれる文化の森公園の遊歩道

文化の森公園裏手の整備は

国の地域未来交付金を活用した
整備を行っている

山上 町長

Q 遊歩道の整備と手すりの設置を早急にできないか。

A 木製の防護柵及び階段ステップについては、老朽化が激しく、令和6年度に延長約437メートルにわたって防護柵の取り換え工事を実施した。

公園全体で見た場合は、まずは緊急性が高いところから順次、防護柵等の補修を行っている。

今後は安全確保を図りながら、手すりとしても利用いただけるよう工夫していきたい。



鳥居 浩一 議員



録画放送はこちらから

ゴミステーションに 防犯カメラの設置を

話題は出たが、要望はなかった

山上 町長

指定日以外のゴミ出しにより、不適切なゴミがそのまま放置されており、特に、もやせるゴミと資源ゴミ（プラスチック）が混在している場合は、カラスが突いたりして、ゴミがゴミステーションの周りに散乱し、掃除当番の方も大変迷惑をしている。以前には、ゴミから発火し、ボヤ騒ぎもあった。

Q 自治会からゴミステーションに防犯カメラを設置して欲しいとの要望はなかったか。



回収されないゴミ

A ゴミの出し方が悪いゴミステーションについての相談の中で、防犯カメラ等の話題が出たことはあるが、要望はなかった。

Q カラスや猫が突くので、目の細かい網を町として設置できないか。

A 令和8年度から、従来の直径2.2cmからより小さな直径0.9cmへと規格を変更し、ゴミステーションの新設や、老朽化している「ゴミ柵」を交換する際には、新たな規格による「ゴミ柵」を設置している。既存のゴミステーションについては、「カラスよけネット」の支給も行っているが、自治会長からの申請が必要となる。担当課は町住民環境課である。

「老老介護」世帯に対して 今後の取り組みは

自宅を訪問し、情報提供している

山上 町長

Q 厚生労働省が2025年度の平均寿命を発表し、男性が81.35歳、女性が87.33歳、女性は40年連続で世界1位を維持している。

健康寿命に関しては、男性が72.57歳、女性が75.45歳となり、その間で、何らかの介護が必要となる

場合がある。

少子高齢化が益々進行し、老老介護の世帯も増加している。

人口の多い団塊の世代が75歳に達し、老老介護は深刻さを増し、介護疲れによる共倒れ、孤立と不安の種は尽きない現状である。

老老介護の世帯数の把握はもちろんのこと、相談窓口や対策等を含めて今後の対応について本町の見解を伺う。

A 本町はこれまで「老老介護を行っている世帯数」に関する調査を行ったことがないが、令和8年3月末現在の本町の65歳以上の人口は、8千168人、増加傾向にあり、高齢化率は、28.4%となる。

地域包括支援センターの訪問看護師を中心として、高齢者世帯等の生活実態を把握するためのアンケート調査を継続し、必要に応じて直接自宅を訪問し、相談を受けたり、介護予防に関する情報提供などを随時行っている。

ふれあい農園の水源確保は

タンクを1基追加設置した

山上 町長

Q 令和6年9月の定例会で、一般質問を行い、その後2年が経過した。



2基になったタンク

前回の答弁を踏まえ、現在のふれあい農園は、その後どのような状況か。

トイレ設置については、利用者からの要望は無かったとの答弁であったが、現在、トイレ設置の要望はないか。

A 令和6年9月定例会での答弁以降、現在においても、トイレ設置の要望はない。

Q タンクを設置して、水源の確保はできたか。

A 意見交換会等でタンクの水の利用ルールを決めて周知を行い、自然の水を貯水して水源確保に努めていたが、まだ水が不足しているとの声があり、令和7年度末に、タンクをもう1基追加して設置した。



濱崎 幸徳 議員



録画放送はこちらから

日並左底線の街灯設置を求める

速やかに設置する予定

山上 町長

山上町長は町民懇談会の中で、日並左底線を防災道路として活用できるのではないかと、言及されていた。国道206号に隣接する10工区や8工区周辺で災害が発生したとき、人が避難したり物資を運んだりする防災道路として考えているのだと思う。そこで、本町としての防災道路の考え方を伺う。

Q 日並左底線が完成したときから、防災道路として考えていたか。



街灯が無い日並左底線

A 日並左底線は、沿線に、土砂災害警戒区域がなく、さらに家屋の立地もほとんどないことから、災害時であつても家屋等の倒壊のおそれが少ない、安全に通行できる可能性が非常に高い道路となっており、防災道路としての活用が図られると考え、町道日並左底線の道路事業を加速させ、2億千800万円の事業費を投入、令和7年4月24日に全面開通した。

Q 本町が捉える防災道路の考え方は。

A 防災道路の考えとしては、日常的には生活道路として利用されているが、災害が発生するおそれが高い場合には避難経路として、また災害が発生した際には円滑な災害支援のために中心的な役割を果たす道路が、防災道路であると考えている。

Q 日並左底線は、夜になると真っ暗で、防災道路として人が避難するときには、歩きにくいのではないかと、街灯をつける必要があると思うが、町の見解は。

A この区間には電柱がなく、九州電力と協議した結果、早ければ年内にも電柱を建てることとなっており、併せて電柱に街灯を取り付ける予定としている。

町民のエアコン設置に補助金を求める

一般財源による独自の購入費補助金は考えていない

山上 町長

Q 今年の夏も猛暑で、エアコンなしでは過ごせない日が続いている。

その中、食料品の値段の高騰、ガソリン・ガス・電気の価格も高騰するなど町民の生活は火の車である。現在、エアコンなしでは生活ができません。室温で、エアコンは生活の必需品となっており、エアコンが古くなったり、故障したりして使えない家庭も出てきていると思う。

長与町では、省エネルギー型家庭用電化製品購入事業補助金を設け、町の電器店を対象店舗として補助事業を行っており、本町も独自で補助金事業を考えてはどうか。

A 長崎市、西海市及び長与町、いずれの市町においても、国のエネルギー・食料品価格等の物価高騰対策として実施されている、いわゆる「重点支援地方交付金」を活用した事業である。

本町においては、水道、下水道及び浄化槽基本料金減免事業、町立小中学校給食食料費補助事業、第2子及び第3子以降保育料無償化事業等に既に活用しており、一般財源による独自の購入費補助は考えていない。



左底池の浚渫を

本町の水道事業は大丈夫か

年々厳しくなっている

山上 町長

Q 本町の水道事業の経営は大丈夫なのか。

A 給水人口の減少に伴う給水収益の減少及び工事費等の労務費の上昇や物価高騰等に伴う事業費用の増加等により、経営は年々厳しくなっている。

施設のダウンサイジングや配水池の統廃合等により、合理的かつ効率的な経営に努める。

Q 左底池の浚渫を考えないか。

A 左底池は水道水源と位置付けておらず、久留里ダムの補水水源として活用しており、多額の費用を要する浚渫工事は必要ないと考えている。



防災士と連携し、 地域防災力の向上を

防災士との連携を一層強化する

山上 町長

近年、豪雨や大規模地震などの複合災害への備えが重要となっている。住民主体で地域の防災力を高める「地区防災計画」について、本町における住民の主体的な防災活動や避難所運営への参加体制など、今後の具体的な取り組みについて伺う。

Q 本町における地区防災計画の策定状況と、計画内で想定している災害などの重点項目は。



防災訓練風景

A 地区防災計画は、地域住民が「自助・共助」の精神に基づき、主体的に防災活動に取り組むための計画で、平成26年4月に創設された。本町では自治会と自主防災組織の区域が同じであり、地区防災計画の対象区域と考えている。

これまで制度の概要やガイドラインについて説明してきたが、現時点で策定された地区はない。

今後、各自治会及び自主防災組織にガイドラインを改めて示し、共助の必要性や地区防災計画の意義について説明し策定を促進する。

Q 災害時の避難所運営について、住民の防災意識や知識の向上、受付・運営の役割分担をどのように進めていくか。

また地域防災のリーダーとなる「防災士」の資格取得者数や地域への配置状況、防災士との連携強化について町の考えは。

A 本町には、令和8年3月末時点で69名の防災士資格取得者がいる。

今後は防災士の専門知識を生かし、避難経路の確認や地域への防災知識の伝達、各地区に必要な訓練内容の検討などに協力いただき、より実践的な防災訓練を進める。

自主防災組織の活性化や住民の防災意識向上、地区防災計画の策定にもつなげる。

海と緑の運動公園の維持管理を 利用者が快適に利用できるよう 整備に取り組む

相川 教育長

Q 海と緑の運動公園について、大会開催時も含め、利用者が安全・快適に利用できるよう、除草などの維持管理体制の改善は。

A 海と緑の運動公園は全国・九州大会などが開催され、町内外から多くの方が訪れる本町のスポーツ振興の重要な拠点である。

現在除草などの維持管理は主にB&G海洋センター職員が行い、雑草が繁茂する時期には月1回程度実施している。

しかし、夏休み期間などは事業が集中するため、職員だけでは十分な対応が難しい状況もある。

今後は、大会の日程やグラウンドの状況を事前に確認し、大会前の除草・環境整備を徹底するとともに、関係部署との連携を強化する。

さらに、雑草が著しく繁茂する時期については外部委託も検討し計画的な維持管理に努める。

町内外の利用者が安全・快適に利用でき、本町に良い印象を持ってもらえる施設となるよう、適切な環境整備に取り組んでいく。



デジタル教科書による授業風景
(イメージ図・AIによる作成)

Q 2030年度からの次期学習指導要領を見据え、教員の働き方改革、デジタル教科書への対応、学校統廃合、コミュニティ・スクールとの連携など、本町の教育環境を今後どのように整備していくか。

A 教員の働き方改革では、支援スタッフの配置や校務の見直し、自動採点システムの導入などにより負担軽減を進める。

次期学習指導要領については「主体的・対話的で深い学び」「多様性の包摂」などを踏まえ、授業改善や教員の資質向上に取り組む。

デジタル教科書は紙と併用し、それぞれの利点を生かす。

学校統廃合は早急に進める状況にはなく、コミュニティ・スクールを活用し、小中9年間を通じた学びと育ちを学校・地域が一体となって支えていく。



若者等に対する施策は

利用状況に応じた居場所づくりに努める

山上 町長

Q 時津町こども計画を作成したが、回答の中に「みんなが気軽に集まることのできるフリースペース」等を求める声も多かったとある。

町として、その様な場所を設置、確保する考えはあるか。

A 既存施設を活用した居場所づくりに取り組んでいる。

今後も、子ども、若者の意見を丁寧に聴きながら、既存の公共施設や地域の施設、地域子ども教室など、さまざまな資源を活用し、それぞれの年代や状況に応じた居場所の確保に努める。



時津町 こども計画

Q 若者の健康が気になるが、希望者に特定健診を受診させてはどうか。若いうちから自分の健康に関心を持ちまた、最近の妊婦は、気づかないうちに高血圧や糖尿病などの合併症にかかり赤ちゃんが育たないケースも出ているため健康診断が必要と思うが、町の見解は。

A 本町は健康診断を受ける機会が無い方に一部自己負担で基本健康診断を実施しており、令和7年度は65名が受診している。

時津町の町民であれば、加入している健康保険に関係なく、受診することが出来る。

また、子育て中の方には、集団検診で乳幼児の託児サービスも開始した。

Q 現在、有効ながん検査として少量の尿検査でがんリスクを判定する検査があるが、高額であるため1万円〜2万5千円くらい補助して受けることにより早期発見・早期治療ができ、とても有効と思うが、町の見解は。

A 適切な年齢及び受診間隔で、がん検診を受けて早期発見し適切な治療を受けることが重要だが、この検査はまだ十分に検証されていないため厚生労働省の指針やガイドラインを参考にしながら判断していく。

Q 若者が地域自治に参加してもらう為に、女性や若者の自治会長が出た地域には、補助金を出したらどうか。また、若者の発言やアイデアを発信したり、イベントの開催などを望んでいるとの意見もあり、そういう若者が表に出てくる仕組みづくりを考えるべきと思うが、町の見解は。

A 現時点で、女性や若者の自治会長が出たところに補助金を出す考えはないが、今年度から、自治会の加入・未加入を問わず、地域住民が広く参加できるイベントを開催する自治公民館に対し「自治公民館活動費補助金」を交付している。

各自治公民館には、この補助金を積極的に活用して若者や女性の地域活動への参加促進に取り組んでもらい町としても支援していく。

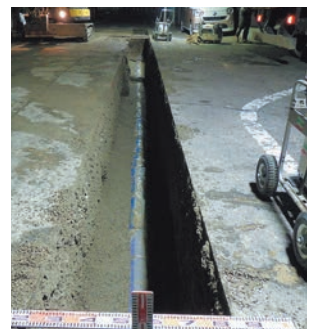
上水道事業はどうなる

将来的には値上げを検討する必要がある

山上 町長

Q 水道水の配管を順次更新していく計画があるが、現在の進行状況と、今後の計画はどのようになっているか。

A 水道管の更新工事は、配水池の統廃合に伴う配水経路の変更による管口径の見直し及び避難所や公共施設



配水管工事

設等の重要施設への管路等を考慮した上で、更新の優先順位を決める作業を現在行っている。

それに並行し配水管の布設年が古く給水管の漏水が多発している管路、町道舗装補修との同時施工区間及び区画整理事業区域内で、今年度は、約723メートルの布設替えを行う。

Q 水道料金の値上げを長崎市・長与町は発表したが、時津町はどのようになっているか。

A 給水人口の減少に伴う給水収益の減少及び工事等の労務費の上昇や物価高騰等に伴う事業費用の増加等により、水道事業の経営は年々厳しくなっている。

将来的には値上げを検討する必要があるが、現時点では、施設のダウンサイジングや配水池の統廃合等により、更新費用を低減することなどを通じて、今後も安全な水の安定的な供給を行うことができるよう経営に努める。



浜辺 七美枝 議員



録画放送はこちらから

学校体育館への エアコン設置を急ぐべきでは

学校体育館へのエアコン設置は
優先度が低いと考える 山上 町長

Q 熊本地震で、震度6以上を観測した7自治体のうち、避難所指定の小中学校体育館のエアコン設置がゼロの自治体が4自治体に上ったことが問題になった。

本町は全ての小中学校体育館へのエアコン設置がゼロだが、エアコン設置を急ぐべきではないか。



36℃もある時津中学校体育館の温度

A 本町で最大被害が起きる地震災害でも、エアコンのある避難所に収容可能と見込んでいるので、学校体育館へのエアコン設置については優先度が低いものと考えます。

Q 私は、これまでくり返し低所得者世帯、困窮世帯へのエアコン購入・設置の助成を求めてきたが、町は国や近隣市町の動向を見極めながら引き続き検討したいとの答弁を繰り返している。

長与町は7月23日の臨時議会で、生活困窮者に対して上限13万円で困窮世帯にエアコンを支給することを決めた。

近隣の長与町が実施を始めた機会に、本町も実施すべきではないか。

A 長与町に確認したところ、この事業は「重点支援地方交付金」を活用した、今年度に限った取り組みとのことだった。

福祉的事業を開始する場合は、その事業の継続性が大変重要だ。

安定的な財源を確保する視点を欠く事業の実施は、長期的には公平性の観点から問題が残ると考えているので、長与町と同様の事業を実施する考えはない。

本町の女性職員の男性職員に 対する給与の割合は

令和7年度実績で61.1%

山上 町長

Q 本町の今年度の女性職員数は正職員の何%で、非正規の会計年度任用職員の何%になっているか。

A 本町の女性職員の割合は、正職員が38.6%、非正規の会計年度任用職員が86.8%となっている。

Q 正規職員と非正規職員を合わせた、本町職員の男性の給与に対する女性の給与の割合は、実際の給料を足しあげて人数で割るという当たり前の方法で算出すると何%になるか。

A 男性の給与に対する女性の給与の割合は、令和7年度実績で61.1%だった。

Q 本町の女性管理職の割合は何%か。

今後、女性管理職を積極的に増やしていく考えはないか。

A 4月1日現在、男性管理職21人、女性管理職6人で、女性管理職の割合は22.2%となっている。



新人町職員のみなさん

管理職は、男女の区別なく、適材適所を旨に、よりふさわしい人材を登用したいと考えている。

Q 人事院は指針改正で、任期6カ月以上の非常勤国家公務員に住居手当と扶養手当を支給するとした。

また、地方自治体で働く会計年度任用職員にも住居手当・扶養手当を支給する検討を進めている。

町として、国に対して自治体にすみやかに方針を示すよう求める考えはないか。

また、方針が示されたらただちに対応できるよう準備しておくべきではないか。

A 国会での審議事項なので、国に対して自治体へすみやかに方針を示すよう求める考えはないが、今後、地方自治法が改正された際には、速やかに対応したいと考えている。



古谷 文夫 議員



録画放送はこちらから

人口減少対策は、どのような
施策を行ったか

総合戦略に基づいた施策で
成果を上げている

山上 町長

令和3年度から令和7年度までの
人口の推移は次のとおりである。

年度	人口(人)
R3 年度	29,381
R4 年度	29,308
R5 年度	29,268
R6 年度	28,995
R7 年度	28,791

数字の上からは、効果が出ていない
のではないかと。

第2期長崎広域連携中枢都市圏
ビジョンにおいて、長崎市、長与
町、時津町の一市二町の中で、令和
7年に目指していた人口 2万
8千900人に対し、国勢調査速報
値は2万8千966人となっており
唯一目標人口を上回っており効果が
出ていないとは考えていない。



子どもの出生数も減っている

ひとつの町だけでの取り組みに
は、限界があると思う。
国や県の人口減少対策を受けて、
連携している取り組みはあるか。

国や県が実施する地方創生や少
子化対策、移住・定住促進などの各
種施策を活用して、情報発信を行っ
ている。

「長崎広域連携中枢都市圏」では、
住民生活に密接に関係する様々な分
野で連携した取り組みを進めている。

人口減少がさらに進むことが見込
まれる中では、ひとつの自治体だけ
で完結させるのではなく、それぞれの
自治体を持つ施設や機能、強みや
地域資源を相互に活用し、圏域全体
で補完し合うという視点が、重要に
なると考えている。

今後、国や県の制度や財源を積極
的に活用するとともに、周辺自治
体、さらには民間事業者や関係団体

などとも連携しながら、人口減少と
いう大きな課題に対し総合的かつ継
続的に取り組んでいく。

障害者就労施設等からの
物品の調達を問う

随意契約により優先的に行うため
ホームページで公表している

山上 町長

調達の対象となる就労継続支援
等は、A型、B型を含めていくつあ
るか。

就労継続支援A型がルートサ
ポート西彼杵、ルートサポート時津
の2事業所。B型が障害者活動所ア
ゲハ蝶、いちごの家、障害福祉サー
ビス事業所エリア21、桜の庵の4事
業所。地域活動支援センターが、ス
マイル作業所の1事業所で、合計7
事業所ある。

令和5年度から令和8年度まで
の調達目標額と実績額は。

調達目標額は、令和8年度まで
各年度とも220万円。

実績額は令和5年度が129万
9千299円、令和6年度が99万
4千762円、令和7年度が
108万1千757円。



施設内での作業



全職員に対し、障害者施設への
発注に関し、徹底した周知を図るべ
きではないか。

現行の運用では年に1回の掲
載・更新が主であったため、職員の
目に触れにくくなっていた。

今後は、より一層の徹底を図る観
点から、適宜、「新着情報」として
再表示させるなど、職員が常に意識
するように運用の改善を図ってい
く。





森 孝太郎 議員



録画放送はこちらから

カナリーホールの今後の運営方針は

多くの人が訪れる拠点にしてい

山上 町長

Q カナリーホールは、交流人口を増やす場所の一つになると思うが、町の見解は。

A 大規模な改修工事を経て、令和8年秋にリニューアルオープンするが、単なる施設の改修にとどめることなく、カナリーホールと文化の森公園を一体的に活用し、町内外から



カナリーホール芝生広場

多くの人が訪れ、交流し、賑わいが生まれる新たな拠点にしてい考えである。

Q 改修による集客力の向上と同時に、維持管理コストの縮減や費用対効果の最適化を図るなど、コスト意識改善の具体的な考えはあるか。

A 空調整備の更新や、照明設備のLED化など、省エネルギー化による経費の縮減を図っており、また、運営面では、新たに施設予約システムやチケット販売システムを導入し、利用客の利便性を高めるとともに、受付業務の効率化に取り組んでいく。

Q 今後の地域住民や若者の文化活動への参画・活用策の考えは。

A 町民の方々が文化・芸術を鑑賞する場であるとともに、自ら文化活動を行い、その成果を発表する場として、より多くの方々に利用して頂くことを重要と考え、現在も芸能祭や音楽祭などを通じて、町民の方々が日ごろの文化活動の成果を発表する機会を設けている。

また、カナリーホール運営委員会や利用者アンケートなどを通じて、利用者や地域住民の皆さまの声を聴き、より利用しやすい施設となるように活用方法について検討してい

障害児・障害者に対する放課後支援と日中一時支援への移行はできているか

対象者一人ひとりと向き合い、今後もスムーズな移行支援を行ってい

山上 町長

Q 放課後等デイサービスの延長支援が受けられないことや、就労支援事業所の退所時間が早いことにより、保護者から困っているという具体的な要望を把握しているか。

A 放課後等デイサービスについて「通常のサービス提供時間よりも遅くまで、開いている事業所はありますか」という問い合わせはあったが、相談や要望に至ったケースは、把握していない。

Q 国の『年齢の特例』制度に基づき、必要性が認められた場合は満20歳に達するまで放課後等デイサービスを延長して利用できるが、町では何人延長利用しているか。

A 対象者は、原則として、学校教育法第1条に規定している学校、又は専修学校等に就学している18歳未満の障害を持つ児童が、引き続き放課後等デイサービスを受けなければならない、その福祉を損なうおそれがある」と「市町村が特に認めるとき」は、



放課後等デイサービス・就労移行支援サービス (AIによる作成)

特例として、20歳に達するまで利用できるが、現時点では、この『年齢の特例』に該当する対象者及び利用実績は無い。

Q 日中一時支援へのスムーズな移行支援など、セーフティネットとなる施策を講じる考えはあるか。

A 本町としては、対象者一人ひとりの状況と向き合いながら、それぞれのケースに応じた判断を行い、必要に応じて、「日中一時支援事業」の利用を認めるなど、引き続きセーフティネットとなる施策を講じていく。

加えて、事業者への必要な情報提供等も行い、サービス間のスムーズな移行を支援してい考えである。



久保 哲也 議員



録画放送はこちらから

狭隘道路の安全対策は

セットバック窓口を都市整備課に設置する
山上 町長

Q 町内密集地「浦郷（北泊）、久留里（岳）」で消防、救急車が入れない箇所、現状を把握しているか。

A 長崎市北消防署浜田出張所に確認したところ、浦郷（北泊）で6箇所、久留里（岳）で7箇所の合計13箇所において、緊急時の走行が難しいとのことであったが、このような箇所において救急要請があった場合、通常は救急車1台で対応するところを消防車も併せて2台で出動し対応している。



拡幅工事時の町道福島線

Q 自治会等から道路拡幅の要望など来っていないか。

A この2地区の自治会からは、具体的な道路拡幅要望は寄せられていない。

Q 「安全上の位置付け」はどうか。

A 火災が広がりにくいよう屋根などに一定の防火性能が求められている。また、関係法令によって防災上の安全性は担保されている。

Q 2地区の空き家は何戸あるか。

A 本年6月末時点では、浦地区で22戸、久留里地区で37戸があった。

Q 地権者に「セットバック」について、前倒し交渉をしてはどうか。

A セットバック部分の取得については、町内全域における共通の課題であると認識している。

全国的には、セットバック部分について地元自治体が測量し、地権者から寄付してもらい、分筆・所有権移転を行い、道路法の道路として地元自治体が維持管理する事例もある。本町において同様の取り組みができないか検証を進め、個別・具体的に対応していけるよう窓口を都市整備課に設置する。

「老老介護」の現状と問題点は

地域包括支援センターの訪問看護師を中心にしている
山上 町長

Q 「老老介護」世帯の10年前と現在を比較して何%アップしているか。

A 令和8年3月末では65歳以上人口が8千168人、高齢化率が28.4%で、この10年で、65歳以上人口が1千254人、高齢化率が5.3ポイント上昇している。

Q 家族介護者によるDV相談、事件等を把握しているか。

A 内容の軽重はあるが毎年度、複数の相談を受けている。

相談事例の一つは介護事業所職員が、以前のサービス利用時には見られなかった、体にできた不自然な「傷」や「あざ」を発見し、町へ通報があったため関係機関や民間団体などと連携を図り、対象者の自宅への立ち入り調査を実施し、その場で保護を行い、介護施設へ入所させた。今後も様々な方法や手段を通じて、事案の把握に努めていく。

Q 「老老介護、認老介護」の現状把握と対応はどうか。



老老介護

A 地域包括支援センターの訪問看護師を中心に継続して、高齢者世帯等の生活実態を把握するためアンケート調査を実施し必要に応じて訪問、相談を受け介護予防に関する情報提供などを随時行っている。

Q 高齢者夫婦で利用可能な「福祉施設」の現状はどうか。

A 特別養護老人ホームが1箇所、介護老人保健施設が3箇所、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）が5箇所、軽費老人ホームが2箇所、有料老人ホームが2箇所、サービス付き高齢者向け住宅が1箇所ある。

Q 包括支援センターの「権利擁護業務は無理なく運営されているか。

A 成年後見制度の広報・啓発活動、成年後見制度の利用に係る費用の助成などの取り組みを推進し様々な相談を受けながら、必要に応じて、各方面と連携を図りながら支援している。



川原 貴光 議員



録画放送はこちらから

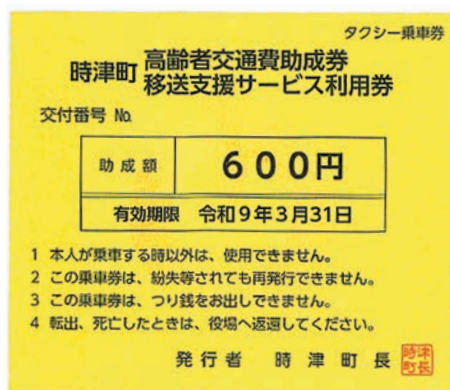
施政方針に基づく施策を問う

持続可能な町をつくる考えで
施策を進めている

山上 町長

Q 子育て・高齢者支援の充実として給食費の一部助成やタクシークットの給付などを行っているが、このまま事業を継続できるか。財源を含めた今後の見通しは。

A こうした各種施策を継続・実施していくにあたって、本町の限られた自主財源や、今後の地方交付税をはじめとする一般財源の動向など、



継続が望まれる高齢者交通費助成券

財政状況を注視していく必要がある。いろんな特定目的基金を有効活用することで、健全な財政運営を堅持しつつ、選択と集中の観点を持って、町民の皆さまの生活を支える各種施策を計画的に推進していく。

Q 交流人口の拡大として、崎野自然公園のイベント内容とコテージの利用者の状況は。

A 例年のイベント行事として、元旦の初日の出、3月のひな祭り、3月中旬から4月上旬のライトアップを行う桜まつり、5月の鯉のぼりイベントなど。

また、「さきのランド」では、時津図書館とも連携しながらバルーン遊びのほか、おはなし会などを実施。このほか、不定期ではあるが、演奏イベントや親子ノコギリクワガタ産卵セットづくりなどの教室イベント、キッチンカーによるミニマルシェや移動動物園、大村湾でのクルージングイベントや釣り大会など精力的に実施している。

ほかにもマルシェイベントやミニコンサートなどを実施し、町内外から来場された1千500人の方々に楽しんでもらっている。

次に、コテージの利用者の状況は、令和5年度が41.1%、令和6年度が43.3%、令和7年度が39.6%である。

今後は、バンガロー及びテントサイトの稼働率を上げることを目的として、国の地域未来交付金を活用しながら、すべての宿泊施設を通年で利用いただけるように改修を進めている。



利用者を増やしていきたいコテージ

Q ウォーターフロント公園を核とした賑わい創出では、民間活力を導入して進めるとのことだが。

A 「時津ウォーターフロント公園を核とした官民連携事業化支援業務」の企画提案書を3社から受けている。

今後は、提出された企画提案書について審査を行い、受託候補者を選定した上で、官民連携による事業化に向けた具体的な調査・検討を進め、今後、大村湾の美しい景観や時津街道の歴史など、地域資源を最大限に生かして、新たな交流と賑わいの拠点となるように取り組んでいく。



次の施策が期待される山上町長

Q 山上町長の任期中に最も力を入れていきたい事業があるか。その内容を具体的に。

A まずは、人口減少対策をはじめ、子育て支援、高齢者福祉、防災・防犯、都市基盤整備など、町民の皆さまが安全で安心して暮らせるまちづくりを、引き続き着実に進めていくことが最も重要であると考えている。

その上で、現在進めている各種事業をしっかりと形にするとともに、将来の時津町に必要な新たな公共施設のあり方について、その方向性を具体化していきたい。

その中でも、老朽化しているB&G海洋センターの体育館アリーナや図書館の整備には多額の整備費が必要となるので、将来の町にとって何が重要なのか、しっかりと見極め、次のまちづくりにつながる道筋を示したい。



平埜 靖 議員



録画放送はこちらから

自治公民館のエアコン修理は 早急にできるか

緊急性があると判断される場合には、対応する

山上 町長

本町は、自治公民館のエアコン設置・更新には、補助制度はあるが、エアコンが故障し、早急な修理・更新が必要な場合でも、補助金の申請時期が次年度となれば、問題が生じる事から、以下について伺う。

Q 公民館のエアコン故障時、速やかに修理・更新につなげるなど、迅速に対応できる仕組みを設ける考えはないか。



自治公民館のエアコン

A 時津町自治公民館整備事業費補助金があり、機会を捉えて、自治会長には説明しており、エアコンが故障し、緊急に補修・更新の申し出があった場合には、施設の利用の可否等を確認、緊急性があると判断される場合には、対応する。

Q 補助金の交付決定前に、修理・更新は可能か。

A 交付決定前の事業着手は控えてもらいたい。

Q 申請書類の作成方法は、積極的な支援ができないか。

A 添付書類を自治会長には用意して頂き、申請書類は負担がからないうよう、担当者が作成を積極的に支援している。

Q 町と自治会長が連携し、迅速に対応できる仕組みの構築を求めるが。

A 緊急の申し出があれば、事業の緊急性、事業内容を確認し、自治会長と協議しながら、歩調を合わせながら、迅速に対応していく。

申請手続き前の事前準備として、補助の内容は詳細に、わかりやすく丁寧に説明し、どの予算の時期に対応するかは、自治会長と確認する。

時津ブランドの確立が必要では

価値を磨き上げ、効果的に発信することブランド力を高める

山上 町長

Q 戦略推進課の役割と、町の将来戦略とは。

A 本町が抱える最も重要な課題である人口減少問題に対応するとともに、地方創生を推進、各担当課が進める施策を横断的につなぎ、調整・推進する役割を担う部署である。

本町が持つさまざまな地域資源や施策で、新たな価値を創り出し、交流人口や関係人口の拡大、地域経済の活性化、さらには人口減少対策へとつないでいく考えである。

Q 交流人口・関係人口を増やす具体的な仕組みとは。

A 具体的には、交流人口の成果を図る目標として、「観光客実数」を、令和5年の5万1千421人から令和12年には9万2千人に、「観光消費額」を令和5年の7億2千160万2千円から令和12年には8億6千万円に増加する目標である。

関係人口については、ふるさと納税やイベント、SNS等、本町との関わり方が多様であるため、現在のところ人数の目標は設定していない。



平原川の護岸工事

左底川支流平原川の整備を急げ

「平原川災害防止対策事業」を
補正予算に計上している

山上 町長

Q ゴロタ石撤去後の平原川河床の現在の状況と、今後の補修・補強の予定は。

A 今年の梅雨末期の大雨によって状況が変化しており、ゴロタ石が河床に堆積しているのを確認はしているが、上流部からの新たなゴロタ石の流れ込みはなく、問題なかった事を確認している。

しかし、石積護岸の空隙箇所や護岸基礎が洗掘されている箇所とともに、洗掘されて護岸の基礎部分や石積護岸の崩壊箇所があり、浚渫工事と護岸補修工事を、一体的かつ最優先で実施できるように、補正予算に計上、成立後は、速やかに発注、令和9年3月までに完了を目指す。

議員

活動報告



議会広報編集特別委員会 視察研修

期日 令和8年6月23日～24日
目的 町議会の活性化に資するため
研修場所 東京インタープレイ(株)
神奈川県開成町役場

研修委員

濱崎委員長、森副委員長、
古谷委員、永田委員、鳥居委員、
内田委員

1、東京インタープレイ(株)

講師 米田代表取締役 他3名
【研修内容】
「SideBooks」を活用した
議会広報について

2、開成町

講師 星野副議長
井上広報公聴常任委員長
他2名

【研修内容】

広報紙とウェブサイトの両輪で
広報改革の推進について

議会運営委員会視察研修

期日 令和8年7月7日～8日
目的 町議会の活性化に資するため
研修場所 神奈川県葉山町役場
寒川町役場

研修委員

中原委員長、濱崎副委員長、
久保委員、川原委員、平埜委員、
森委員、古谷委員

1、葉山町

講師 土佐議長 他5名
【研修内容】
通年議会、反問権について

2、寒川町

講師 山上副議長
亀井議会事務局次長
【研修内容】
通年議会、議員問討議、
主権者教育について



葉山町



寒川町

総務文教常任委員会 意見交換会

【時津町PTA連合会】

令和8年7月3日に時津町PTA連
合会と総務文教常任委員会にて意見交
換会を行いました。

- 通学路・学校周辺の安全対策
 - 熱中症対策・学校環境
 - 学校給食
 - 学校への車での送迎
 - 2030年教科書改訂・デジタル化
 - ICT活用と情報モラル
- 以上について意見交換を行い、今後
も話し合いを継続することになりました。

時添 靖晃
PTA連合会会長



子どもたちの未来の
ために、これからも
良きパートナーとし
て意見を交わしてい
ければ幸いです



時津っ子について様々な意見ができました

県下町村議会議員研修会

期日 令和8年7月2日
研修場所 長崎県市町村会館

【研修内容】

○地方議員のための安全なSNS発
信と生成AI活用。

講師 議会事務局実務研究会

北村 純一氏

○役所を動かす質問の仕方
～準備・提案・追跡の実践～

講師 地方議員研究会
総括コンサルタント

川本 達志氏

県下町村議会委員長研修会

期日 令和8年8月4日
研修場所 長崎県市町村会館

【研修内容】

○委員会の運営について

講師 元全国町村議会議長会

議事調査部参与

赤羽 正法氏

町村議会広報研修会

期日 令和8年8月5日
研修場所 長崎県市町村会館

【研修内容】

○「情報としての言葉を伝える」

講師

文章コンサルティングファーム

未来交創代表取締役

前田 安正氏

都市計画道路 令和8年8月17日 14時 西時津左底線（小島田工区）開通です！

開通までの
カウントダウン



開通前の準備風景



さあ！待ちに待った
いよいよ開通です。



開通道路



西彼杵郵便局側から
ヤマダ電機方面への
第一号の通行車両です。
なんと！
大塚議員の車でした。

人も車も
交通ルールを
守って
安全に！！



傍聴席から
ひとこと左底なづみ会
副会長

大西 義治 さん

令和8年第3回定例会の傍聴を募ったところ
なづみ会で24名の申し込みがありました。

会員の多くは、初体験で興味津々。

傍聴者資料を頂き、最初に議案説明がありま
した。

議員も説明者もタブレットに説明内容がある
ため、スムーズに報告されましたが、傍聴者資
料では議案番号のみが紹介されており、そのう
え傍聴席では聞き取りづらく意味不明の状況
だったとの声が多くありました。

できれば、議案の内容と結果等も資料に添付
されていれば理解しやすいと思いました。

一般質問での公共施設等総合管理計画と図書
館の建設についての質疑では、老朽化した施設
を複合化するには多額の経費、土地確保等も大
きな壁となるが、今後、複合施設として可能な
のか検討したいとの事。

大変興味深い事案だと思つた。

住みよい時津町に少しでも便利に利用できる
施設が実現する事を願いながら傍聴させて頂き
ました。

参加者からも、傍聴できたのはよかったとの
声が多くありました。



エレベーターで6階へ



いよいよ傍聴です。



左底なづみ会の皆様
が役場玄関に到着されま
した。



2026年9月1日 左底なづみ会 御一行様



9月議会の傍聴者は、延べ66人でした。
次の定例会は、
令和8年12月1日(火)からの予定です。
皆様の傍聴をお待ちしております。



左底の皆様が帰られます。



午前の傍聴を終え、
皆様バスに乗り
込まれます。

議会開催中は、12月1日(火)より「時津町議会本会議」を同時放送します。

<https://togitsu-town.stream.jfit.co.jp>

時津町議会映像配信

検索

